名古屋文理大学紀要 第3号(2003)

環インド洋地域経済圏の形成とその意義について(2) -域内各国の貿易構造の検討を中心に-

A Study on Indian Ocean Rim Economic Area(2): The Formation and its Meanings—Mainly on the Examination of the Trade Structure of Each Country in the Area—

須 藤 裕 之 Hiroyuki SUDO

前回の拙稿¹に引き続き,環インド洋経済圏の形成について論じる.特に,本稿では環インド洋地域の域内分業の可能性について考える.より具体的には,環インド洋各国の商品別輸出構成や特化係数等のデータから域内諸国貿易構造の特徴ならびに国際経済社会における位置づけについて検討し,最終的には環インド洋地域経済圏形成における各国,各地域の役割について言及する.また,貿易構造に関しては,特にその要因として「環インド洋地域協力連合」(IOR-ARC)²諸国の要素賦存とその意味について考える.

キーワード:環インド洋地域協力連合、域内分業、地域経済圏の形成、貿易構造、標準国際貿易商品分類 IOR-ARC, Intraregional Division of Labor, Formation of Economic Area, Trade Structure, SITC

はじめに

前回拙稿の分析では、環インド洋地域経済圏の形成とその意義について、主として同地域経済の歴史的な位置づけと近年における域内経済交流の活発化やその背景について論じた。そこでは1990年代以降、東西冷戦の終結や全世界的なグローバリゼーションの隆盛、そしてそれらがもたらす「大競争の時代」といった国際経済環境の劇的な変化が環インド洋地域経済にどのような影響を与えつつあるかを中心にみた。また1997年、正式に発足したインド洋地域はじめての地域大経済協力機構である「環インド洋地域協力連合」(IOR-ARC)発足とその経緯について、今後の課題等も踏まえて言及した。その結論を簡単にまとめるならば、以下のようになる。

すなわち、1990年代以降の世界的なグローバリズム の潮流は、環インド洋域内、特にアジア対アフリカ間 の経済交流の拡大という形で同地域へも確実に影響を 与えると同時に、地域交流フレームワークとしての IOR-ARC の発足を促した最大の要因であった.

しかしながら、IOR - ARC の発足と時を同じくして起こった東アジア経済危機は、近年における域内経済交流減速化の要因として作用し、IOR - ARC は必ずしも十全にその目的を果たしつつあるとはいえない。ただこのことの背景には、アジア通貨危機など近年における地域経済事情に加え、IOR-ARC や同地域経済社会そのものがこれまで抱えてきた様々な問題も影響している。類似した産業・輸出構造をもつがゆえに貿易自由化をはじめとする経済利害の調整がネックとなっていることは言うまでもないが、それ以上に歴史的な域内構成国間の政治的対立や安全保障上の問題は、IOR - ARC メンバーシップ問題に絡んで同地域経済の各国協調関係を阻害する最大の要因となってきている.

こうした現在および将来にわたる環インド洋地域の 政治的,経済的利害対立を円滑に調整するためには, 域内構成国の積極的な協調や努力のほかに,我が国³ をはじめとする先進諸国の理解と協力が不可欠である. ただ、それはこれまで同地域が経済構造上の特徴として有してきた先進地域への依存とはまた別な意味において行なわれることになろう。なぜなら、より厳しさを増す国際経済環境からして、今後とも同地域経済が国際分業上これまでと同様、先進地域の生産基地としてだけの役割に甘んじるとは到底考えられないからである。その意味で、様々な地域的問題が存在するにせよ、東南アジアをはじめとする地域各国が外資導入や自由化によってこれまで醸成してきた生産力や技術を背景に、南南協力や同貿易を拡大する可能性や意義は十分にあり、その一端として環インド洋地域内交流の高まりやその意義を考える必要性は依然少なくないといえる。

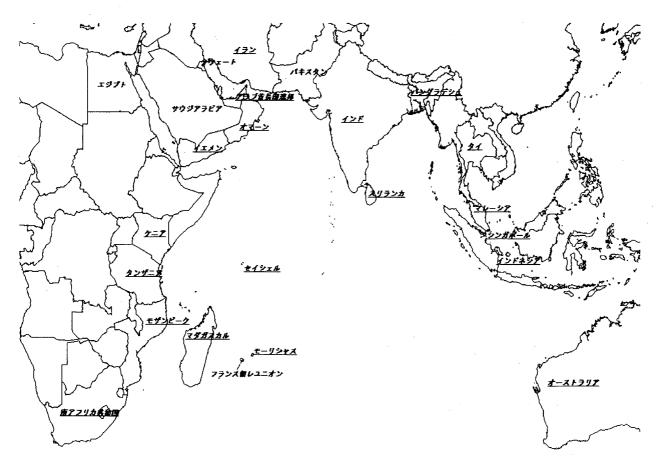
以上のような前回の分析を受けて本稿では、次節以降,国際分業論的な視点から、主として商品貿易に関するデータを使い、環インド洋域内各国の貿易構造上の特徴を検討したうえで、域内分業体制構築の今後とその可能性について検討する.

1. 環インド洋関係諸国と商品輸出構造

図1は,環インド洋地域全図と1997年に正式に発足

した IOR-ARC 関係諸国を示したものである. 周知のようにインド洋は世界で3番目に大きな海域である. ペルシャ湾や紅海などの小洋4を含め36の独立国と2つの海外属領5がこの海域に属している. 図中の下線を付した国が, 現時点における IOR-ARC 加盟19カ国である. それ以外の国は, 正式に加盟申請を表明した国(パキスタン, 仏領レユニオン) と実際上, これまで IOR-ARC 協議に参加してきた国(エジプト, クウェート, サウジアラビア)である. これら全23カ国1地域は, その実現性6を別にすれば, 将来における環インド洋経済圏の仮想構成国ないしは協調国と考えられる. 以下では, これら IOR - ARC 関係諸国を中心にその貿易構造を検討することによって, 将来にわたる域内分業の可能性について検討していく.

表1は、環インド洋諸国の商品輸出⁷について1990年および2000年の総輸出額ならびに各商品グループ別⁸の輸出構成比についてみたものである。また当該国の輸出商品構成の特徴を明らかにするために、同表最下段に示した世界商品輸出構成比に対する大きさを「対世界比」⁹として示した。以下、順次各国の輸出構造について見ていこう。



(資料)筆者作成 図1

図1 環インド洋地域協力連合(IOR-ARC)関係諸国

,					曲米区共和				燃料			鉱石・金属			製品		
,	商品輸出総額		食料 横成比% 対世界比		農業原材料 横成比% 対世界比						構成比% 対世界比						
	百万				对世界比			对世界比			対世界比			対世界比 2000	1990	2000	2000
	1990	2000	1990	2000	2000	1990	2000	2000	1990	2000	2000	1990	2000		_		
シンガポール4)	52,752	137,875	5	2	0.3	3	0	0.0	18	10	1.3	2		0.3	72	86	1.1
マレーシア	29,416	98,237	12	6	0.9	14	3	1.5	18		1.3	2	1	0.3	54	80	1.0
サウジアラビア	44,417	84,060	1	1	0.1	0	0	0.0	92	92	11.5	0	0		7	7	0.1
タイ	23,070	69,057	29	14	2.0	5	3	1.5	1	3	0.4	1	1	0.3	63	76	1.0
オーストラリア	39,752	63,869	20	21	3.0	10	6	3.0	18		2.8	16		5.7	16	29	0.4
インドネシア	25,675	62,124	11	9	1.3	5	4	2.0	44	25	3.1	4	5		35	57	0.7
インド	17,975	42,295	16	14	2.0	4	1	0.5	3	0	0.0	5	2	0.7	71	79	1.0
イスラエル	12,080	31,338	8	3	0.4	. 3	1	0.5	1	1	0.1	2	1	0.3	87	94	1.2
イラン	16,870	30,017		3	0.4		0	0.0		89	11.1		1	0.3		7	0.1
南アフリカ5)	23,549	29,983	8	9	1.3	4	3	1.5	7	10	1.3	11	11	<i>3.7</i>	22	54	0.7
クウェート	7,042	19,544	1	0	0.0	0	0	0.0	93		9.9	0	0	0.0	6		0.3
オマーン	5,508	11,328	1	4	0.6	0	0	0.0	92	83	10.4	1	1	0.3	5		0.2
パキスタン	5,589	9,173	9	11	1.6	10	3	1.5	1	1	0.1	0	0	0.0	79		1.1
バングラデシュ	1,671	6,500	14	7	1.0	7	2	1.0	1	0	0.0	0	0	0.0	77	91	1.2
スリランカ	1,983	5,134	34	21	3.0	. 6	2	1.0	1	0	0.0	2	0	0.0	54		
エジプト	2,585	4,689	10	9	1.3	10	8	4.0	29	37	4.6	9	4	1.3	42	37	0.5
イエメン	692	4,200	75	5	0.7	10	1	0.5	8	93	11.6	7	0		1		0.0
ヨルダン	1,064	1,897	11	16	2.3	0	0	0.0	0	0	0.0	38	15	5.0	51		0.9
スーダン	374	1,807	61	67	9.6	38	27	13.5	0	0	0.0	0	0	0.0	1	3	0.0
ケニア	1,031	1,734	49	59	8.4	6	9	4.5	13	8	1.0	3	3	1.0	29		0.3
モーリシャス	1,194	1,493	32	18	2.6	1	1	0.5	1	0	0.0	0	0	0.0	66	81	1.0
ミャンマー5)	325	1,391	51	51	5.1	36	36	12.0	0	0	0.0	2	2	0.5	10		
タンザニア	415	663		70	10.0		13	6.5		0	0.0		1	0.3		15	
エチオピア	298	l		71	10.1		19	9.5		0	0.0	[1	0.3		10	
マダカスカル	319	260	73	36	5.1	4	6	3.0	1	2	0.3	8	4	1.3	14	50	
モザンビーク	126	235		52	7.4		11	5.5	[25	3.1		2	0.7		10	
世界計	3,432,703	6,355,992	10	. 7	1.0	3	2	1.0	8	8	1.0	4	3	1.0	74	78	1.0

表1. 環インド洋諸国1)の商品輸出構成2)と対世界比3)

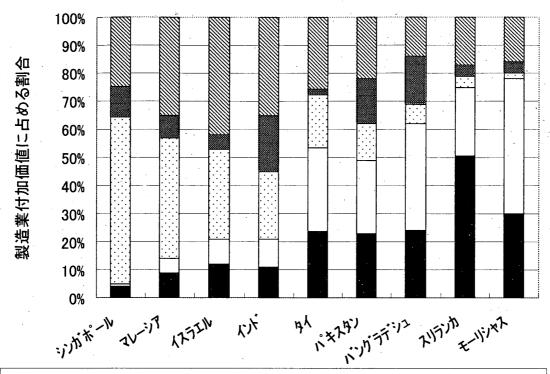
- (注) 1) 本来のインド洋諸国35カ国からパーレーン、コモロ、ジブチ、イラク、モルディヴ、ソマリア、セイシェル、エリトリア、カタールを除く26カ国。
 - 2) 構成比は、分類されていない取引のために合計は必ずしも100%にならない。
 - 3) ここでいう「対世界比」とは、当該商品部類の世界構成比に対する当該国構成比の比率である。詳しくは本文脚注 X を見よ。
 - 4)「再輸出」を含む.
 - 5)1990年のデータは「南部アフリカ関税同盟」(SACU;南アフリカ、ボツワナ、レソト、スワジランド、ナミビア)の数値である。 (資料)参考文献(6)のデータより筆者作成

表1から,環インド洋諸国中最大の商品輸出国はシンガポールである.2000年におけるその総輸出額は1378億7500万%で,これに次ぐマレーシアを含め,やはり東南アジア諸国が同地域貿易の中心であることがわかる.また商品構成上,「製品」輸出がこれら両国とも8割を超えており,先進国を含む世界平均(対世界比1.0)水準を満たしている.このことは東南アジア経済が製品輸出加工を中心とした経済発展を遂げてきたことの反映である.ただ,シンガポール,マレーシアともにその商品輸出には「再輸出」を多分に含んでいることに注意する必要がある10.

しかしながら、これら2カ国において、その「製品」輸出よりも対世界輸出構造上、比較的突出した輸出商品として「燃料」(両国とも対世界比1.3)をあげることができる。これはシンガポール、マレーシアともに石油精製業がその中心にあるためだが、後に見るように、マレーシアの場合にはこれに原油も含まれており、表1では「農業原材料」(同1.5)に分類されるパーム

油など植物性油脂の輸出も盛んである. いずれにせよ,同様に環インド洋に属するタイ,インドネシアを含め,同表から,東南アジア諸国が輸出総額,「製品」輸出ともに1990年代に急速に伸長させてきていることがうかがえる.

「製品」輸出の対世界平均を超える大きさという点では、環インド洋諸国先進国の一つであるイスラエル(対世界比1.2)やインド(同1.0)、パキスタン(同1.1)、バングラデシュ(同1.2)、スリランカ(同1.0)といった南アジア諸国、そしてモーリシャス(1.0)をあげることができる。ただイスラエルを除くとこれら南アジア諸国の「製品」輸出は、上述したシンガポール、マレーシアとは異なり、繊維・衣類など労働集約的な軽工業品が主である。図2¹¹は、これら表1で「製品」輸出構成比の対世界比が1.0を上回った国について、国内製造業付加価値シェアを製品別にみたものである。これを見て明らかなように、「機械および輸送用機器」の生産を中心とするシンガポール、マレーシアに対し



■食料·飲物·たばこ □繊維·衣類 □機械及び輸送用機器 ■化学製品 図その他の製造業品

図2. 環インド洋主要国製品別生産構成比

て、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、モーリシャスは「食料・飲料・たばこ」など、一次産品加工品や「繊維・衣類」など労働集約的製品の生産を中心としていることがわかる.

表1中の上記以外の地域としては、サウジアラビアをはじめとする中東地域諸国の「燃料」輸出が特徴的である。世界でも有数の産油地帯であることを反映して、これらの対世界比は軒並み10を超える。東南アジア産油国であるインドネシア(天然ガス・石油)やオーストラリア(石炭)も中東地域ほどではないにせよ、かなりの「燃料」輸出を行なっていることがわかる(オーストラリア対世界比2.8、インドネシア同3.1).一方、アフリカ(北アフリカを除くサブサハラ・アフリカ)地域では、南アフリカを除き、ほとんどの国が「食料」と「農業原材料」といった一次産品を中心とした輸出構造であり、東南・南アジア諸国の「製品」輸出中心の輸出構造とは対照的である。こうした「製品」輸出の伸び悩みこそ、アフリカ貿易上の大きな問題であり12、開発の阻害要因の一つと考えられている。

2. 環インド洋地域の貿易構造と特化係数

前節での分析をさらに進めるため、輸入面も含めた 各国の商品貿易について検討して行こう.表2は、「標 準国際貿易商品分類」(SITC) 1桁(大分類)水準での、環インド洋主要国の商品別輸出入額と特化係数¹³について見たものである。表1とは異なり、輸入面も示されている点で、当該国の貿易構造上の特徴を考えるうえではこちらの方が適当である。なお表中、金額が「0」で示された項目は、当該貿易がないのではなく、金額が100万ドルに満たないことを意味している。以下、特化係数に着目しながら、各国の貿易構造について見ていこう。

各国の貿易構造を輸入面もいれた表2でみると,表1の様相はかなり異なることがわかる。例えば,表1でも輸出構造上「製品」輸出を中心としていたシンガポールの貿易は,表2においても「機械類・輸送用機器」の輸出として現れている。ただシンガポールは都市国家であり、その国としての規模は他国に比べきわめて小さい。結果、国内に一つの製品生産に必要な産業の多くを立地させることは不可能であり、自ずと部品その他の生産財や資本財を輸入に頼らざるを得えない。結果として、上述したように組立加工型の「製品」輸出がその中心となり、産業内貿易型の構造が必然的にその特徴となる。このことはシンガポールの「機械類・輸送用機器」貿易の特化係数がその輸出規模に比べ0.09ときわめて小さいことにも表れている。

表 2. 環インド洋主要国商品分類別輸出入額と特化係数

(単位:100万米**, ただし「0」は100万***未満)

SITC	国	シンガポール1)		・マレーシア1)			サウジアラビア3)			タイ2)			
番号	商品分類	輸出	輸入	特化係数	輸出	輸入	特化係数	輸出	輸入	特化係数	輸出	輸入	特化係数
	総額	109, 905	101, 732	0.04	73, 304	57, 797	0.12	56, 510	27, 765	0.34	58, 283	62, 462	-0.03
0	食料品	1, 800	2, 702	-0. 20	1, 584	2, 681	-0. 26	358	4, 302	-0. 85	10, 390	2, 443	0. 62
	飲料、たばこ	1, 601	1, 382	0. 07	237	153	0. 22	0	188	-1.00	210	209	
2	非食品原材料	1,050	819	0.12	2, 363	1, 462	0. 24	177	567	-0. 52	2, 612	2, 675	
3	鉱物性燃料	8, 232	8, 199	0.00	4, 517	1, 828	0. 42	50, 051	0	1.00	1, 374	5, 839	-0.62
4	動植物性油脂	294	314	-0. 03	5, 468	267	0. 91	0	205	-1.00	0	0	
5	化学製品	6, 962	6, 008	0. 07	2, 512	4, 013	-0. 23	3, 895	2, 534	0. 21	2, 442	5, 994	
6	原料別製品	5, 052	9, 197	-0. 29	6, 139	6, 470	-0. 03	1, 178	5, 607	-0. 65	6, 919	10, 685	
7	機械類,輸送用機器	72, 955	61, 300	0. 09	43, 394	36, 324		709	9, 843	-0. 87	22, 336	29, 320	
8	雑製品	9, 064	10, 239	-0.06	6, 389	3, 085	0. 35	0	2, 932	-1.00	9, 818	3, 716	
9	特殊取扱品	2, 895	1, 575	0, 30	701	1, 514	-0. 37	0	1, 528	-1.00	2, 110	1, 512	0.17
SITC	重	オー			イン				インド2)			スラエル	-/
番号	商品分類	輸出	輸入	特化係数	輸出	輸入	特化係数	輸出	輸入	特化係数	輸出	輸入	特化係数
	総額	55, 809	60, 774	-0.04	48, 848	27, 337	0. 28	34, 794	41, 430		23, 304	27, 469	
0	食料品	9, 497	2, 299	0. 61	3, 718	2, 612	0.17	5, 439	1, 279	0. 62	845	1, 550	
	飲料,たばこ	726	370	0, 33	258	94	0. 47	298	0	1.00	0	124	
	非食品原材料	10, 570	1, 018	0. 82	3, 719	2, 349	0. 23	1, 781	2, 512	-0.17	591	597	-0.01
	鉱物性燃料	9, 481	2, 755	0. 55	9, 429	2, 752	0. 55	399	10, 078	-0. 92	118	1, 818	
4	動植物性油脂	241	169	0. 17	1, 521	0	1,00	177	883	-0. 67	0	98	
5	化学製品	2, 076	6, 677	-0. 53	2, 087	4, 030	-0.32	3, 399	5, 420		3, 157	2, 701	0, 08
6	原料別製品	6, 923	8, 275	-0.09	8, 833	4, 671	0. 31	13, 408	7, 760		7, 972	8, 177	-0.01
7	機械類,輸送用機器	6, 667	27, 800	-0. 61	4, 655	9, 903	-0.36	2, 779	7, 427	-0.46	7, 800	9, 437	-0.09
	雑製品	2, 083	9, 177	-0. 63	6, 604	764	0. 79	6, 406	1, 457	0. 63	2, 757	2, 730	
	特殊取扱品	7, 546	2, 236	0. 54	8, 025	116	0. 97	709	4, 604	-0. 73	46	238	
SITC	国		プリカ2)			ウェート			トマーン2)		キスタン	
番号	商品分類	輸出	輸入	特化係数	輸出	輸入	特化係数	輸出	輸入	特化係数	輸出	輸入	特化係数
	総額	22, 486	30, 879	-0.16	14, 126	8, 246		7, 631	5, 026		8, 498	9, 313	
	食料品	1, 997	1, 220	0. 24	46	1, 126	-0.92	183	581	-0. 52	1, 115	885 0	0. 12
	飲料、たばこ	341	197	0. 27	0	87	-1.00	117	187	-0. 23			
2	非食品原材料	2, 303	971	0. 42	42	108	-0.44	34	108	-0. 53	190	558	
	鉱物性燃料	1, 647	3, 543	-0.37	13, 427	44	0. 99	5, 829	107	0.96	27	1, 495	
_	動植物性油脂	0	269	-1.00	0	43	-1.00	15	31	-0. 35	0	985	
5	化学製品	2, 052	3, 232	-0. 22	203	668	-0. 53	42	304	-0. 76	62	1, 875	-0.94
6	原料別製品	6, 950	3, 507	0. 33	125	1, 659	-0.86	176	891	-0. 67	4, 560	892	0. 67
7	機械類,輸送用機器	3, 319	10, 400	-0. 52	218	3, 180	-0.87	917	2, 152	-0.40	90	2, 123	-0.92
8	維製品	1, 065	2, 443	-0.39	49	1, 183	-0. 92	210	351	-0. 25	2, 428	248	
9	特殊取扱品	2, 705	5, 096	-0. 31	0	148	-1.00	108	315	-0.49	0	248	-1.00

- (注)1)1998年のデータ.
 - 2) 1997年のデータ.
 - 3) 1996年のデータ.
 - 4)「南アフリカ関税同盟国」(SACU)のデータ.
 - (資料)参考文献(10)のデータより筆者作成.

こうした事情はマレーシアの「機械類・輸送用機器」 貿易(特化係数0.09)にもあてはまる.ただ貿易構造 上,両国が大きく異なる点は,マレーシアには「動植 物性油脂」(同0.91)というきわめて特化度の高い輸 出品目があり,それ以外にも「鉱物性燃料」(同0.42) や「雑製品」(同0.35)などの輸出品目が存在してい る点にある.これらマレーシア輸出品目は,シンガポ ールとは違い,商品貿易上同国の貿易黒字を生み出す のに貢献している.このように主要な産業以外にそれ なりの特化度もった産業を持つことができるか否かは, その国の相対的規模に決定的に依存しているといえ る¹⁴.

表1で指摘したように、南アジア諸国は衣類、軽工業品を含む「雑製品」に高い特化度をもっている(インド特化係数0.63、パキスタン同0.81). これに加え

インドでは「食料品」(同0.62)、パキスタンでは繊維製品を含む「原料別製品」(同0.67)がそれぞれ主要な輸出品目として存在している。これらの国は、マレーシアやシンガポールとは異なり、原材料や素材、そして労働集約財を輸出し、「機械類・輸送用機器」などの資本集約財や「鉱物性燃料」など天然資源を輸入するという垂直分業ないしは産業間貿易型の構造である。また図2の国内製品生産構成比では明確ではなかったタイの「機械類・輸送用機器」の産業内貿易も表2から明らかである。しかしながら、その特化度は上記2カ国とは異なりマイナスである(同-0.14)、その一方、米などを含む「食料品」(同0.62)や衣類など労働集約的な「雑製品」(同0.45)の特化度は高く、この意味でタイは「機械類・輸送用機器」の産業内貿易という東南アジア的な特徴と労働集約財、「食料品」輸

出というインド的な特徴を併せ持った構造を有しているといえる.

今ひとつの東南アジア構成国であるインドネシアの 貿易構造は、原油や天然ガス(「鉱物性燃料」(特化係数0.55))など固有の資源貿易を中心としながらも、「特殊取扱品」(同0.97)や「雑製品」(同0.79)、そして「原料別製品」(同0.31)など先に見たインドや後に見る中東およびオーストラリアそれぞれの特徴を併せ持った特化構成となっている。これは同国が2億人を超える人口を背景として豊富な労働力と豊富な天然資源を有しているがゆえの貿易構造であり、人口大国であっても天然資源に乏しいインドや天然資源があっても労働力に希薄な中東では同様の構造をもつことはむずかしいといえる。

中東地域については、表1同様、貿易構造上も「鉱物性燃料」に高い特化度を持つ国がほとんどである。表2では、サウジアラビア(特化係数1.00)、クウェート(同0.99)、そしてオマーン(同0.96)といった中東諸国すべてが「鉱物性燃料」貿易についてはほぼ完全特化といってよい。ただ、そうした中でもサウジアラビアのように、特化度は低いながらも原油産業以外にも「化学製品」(同0.21)を輸出産業として有している国と、「鉱物性燃料」以外はすべて輸入品目となっているクウェートやオマーンとではやや事情が異なる。こうした違いも、先述したように主力産業以外の産業も国内に立地させることができるその国の規模に関係しているといえよう¹⁵.

オーストラリアと南アフリカの貿易構造は、オーストラリアが鉄鉱石など「非食品原材料」(特化係数0.82)を中心に、肉類・小麦などの「食料品」(同0.61)、石炭をはじめとする「鉱物性燃料」(同0.55)、そして非貨幣用金を含む「特殊取扱品」(同0.54)にそれぞれ特化した構造を持っている。このことは表1の商品輸出構成比の結論とほぼ一致している。これに対して、南アフリカは、鉄鋼やダイヤモンドなど「原料別製品」(同0.33)や「非食品原材料」(同0.42)に一応の高い特化度を持ちながらも、総じてその他の品目は輸入品目か、貿易量、特化度ともに相対的に小さい品目ばかりである。ただ、南アフリカが他のサブサハラ・アフリカ諸国と異なる点は、「食料品」(同0.24)から「機械類・輸送用機器」(同-0.52)に至るまで比較的幅広い貿易品目を有している点にある。

前節での商品別輸出構成比と合わせ,環インド洋地域諸国の貿易構造について以下のように結論付けるこ

とができる. すなわち,シンガポール,マレーシアといった東南アジア諸国では,産業内貿易を特徴とする加工組立型貿易構造を有し,南アジア諸国では,一次産品と労働集約財輸出に中心をおいている. 中東,オーストラリアではそれぞれ固有の天然資源貿易に高い特化度もち,インドネシアやタイはこれら各地域の特徴をそれぞれ併せ持った貿易構造を有しているといえる. では,具体的にどのような商品を各国は輸出し,輸入しているのであろうか.

3. 主要輸出品目と要素賦存

これまで見てきた世界銀行による商品グループ別分類(表1)も、SITC1桁レベルでの商品輸出構造(表2)も国ごとの全体的な貿易構造を概観する上で、有用であった.しかし、一国の比較優位をもつ輸出品を把握するためにはこれらの分類レベルでは様々な種類の商品が含まれ過ぎており、要素集約度などの比較優位構造の要因については、もう少し細かなレベルでの輸出入品目を知る必要がある.表3は、これまで取り上げきた環インド洋主要国を中心に、SITC2桁(中分類)レベルに該当する各国の主要貿易品目についてまとめたものである.

表3から、人口、国土両面における狭小性という制 約があったために,加工組立型の産業内貿易に特徴持 つシンガポールでは、輸出入品ともに「機械類」が最 大の貿易品目となっており、貿易額全体の半分、輸出 額の6割(輸出構成比64.20%)以上が同品目によって 占められていることがわかる. また「石油製品」(同 7.33%) や「有機化合物」(同2.18%),「プラスチッ ク」(同1.51%) などの化学製品,「精密機械」(同 2.68%) や「磁気テープ・ディスク類」(同1.26%) などいずれも資本集約度の高い工業製品がこれに続い ている. 結果, これらの製品輸出をするために大量の 中間財・生産財を輸入をしなけばならない同国の置か れた状況が把握できる. 基本的な状況は、マレーシア も同様であるが、先述したように、同国には「機械類」 (同56.39%) 以外にも「パーム油」(同5.64%) や「衣 類」(同3.14%), そして「原油」(同2.83%)・「天然 ガス」(同2.09%) といった規模的にはそれほど大き くないものの機械類とはまた種類の異なる輸出商品が 存在している.

これに対して、インド、パキスタンなど人口は稠密 だが資源に乏しい国では、その主要な輸出品目は労働 集約的な「繊維品」(インド輸出構成比15.07%、パキ

表3. 環インド洋主要国主要品目別貿易額と構成比

(単位:100万米 5, %)

l		シンガル	ピールリ					マレーシ	·ア1)		-
輸出		7777	輸入			輸出				入	
品目	金額	構成比	品目	金額	構成比	品目	金額	構成比	品目	金額	構成比
総額		100.00			100.00		73, 304				100.00
機械類	70, 557		機械類	55, 383			41, 333	56. 39	機械類	32,613	56.43
石油製品	8,060	7. 33		5, 091	5, 00	パーム油	4, 135	5. 64	鉄鋼	1, 795	3.11
精密機械	2, 948		精密機械	3, 597	3. 54	衣類	2, 304	3.14	航空機	1, 790	3.10
有機化合物	2, 397	2, 18	石油製品	3, 106	3. 05	原油	2,072	2. 83	精密機械	1, 562	2.70
プラスチック	1,659	1.51	航空機	2, 591	2. 55	液化天然ガス	1,532		石油製品	1, 394	2.41
衣類	1, 428	1.30	鉄鋼	1, 997	1.96		1,344	1.83		1,116	1. 93
金(非貨幣用)	1, 399		金属製品	1,919		精密機械	1, 158	1.58	プラスチック	1,061	1.84
磁気テープ・ディスク類	1, 382	1. 26	船舶	1,819		航空機	1, 143		有機化合物	1,010	1.75
製造たばこ	1, 218	1, 11	磁気テープ・ディスク類	1,717	1. 69	合板類	1, 130		金属製品	1,009	1.75
		タイ						ーストラ			
輸出			輸入			輸出		146 15 7 7		入	1.00
品目		構成比	品目	金額	構成比	品目		構成比		金額	
総額		100.00			100.00	総額		100.00		60,774	
機械類	20, 642	35. 42	機械類	24, 946	39. 94		6, 188		機械類	18, 767	30.88 11.95
魚介類	4, 211	7. 23	原油	4, 694		金(非貨幣用)	4, 801		自動車	7, 263	
衣類	3, 722		鉄鋼	3, 636		機械類	4, 428		原油 精密機械	2,083 2,016	3, 43
米	2, 100	3. 60	自動車	2, 187		鉄鉱石	2, 505	4, 49	イス (新貨幣用)	1,993	3, 32
繊維品	2,060	3. 53	金属製品	2, 046		肉類	2, 457 2, 207	3 05	金(非負幣用) 医薬品	1, 993	2, 94
天然ゴム	1,855	3. 18	航空機	1,688		小麦	2, 207	3.90	繊維品	1, 638	2. 70
精密機械	1,080	1.85	有機化合物	1,681		アルミニウム	1,878		衣類	1,525	2. 70
石油製品	1, 051		精密機械	1, 292		羊毛	1,476		金属製品	1,519	
はきもの	1,047		プラスチック	1, 202	2.02	酪農品	1, 320		航空機	1, 461	2, 40
プラスチック	1,026		繊維品 ネシア1)	1, 243	2.00	HII JESCULI I	1,020	インI		1, 101	
輸出		1/2/11/	輸入			輸出	Н			入	
										判ノト	
8.8	全類	構成比		金額	構成比			構成比	品目		構成比
公 品 目	金額	構成比	品目	金額 27,337	構成比	品目	金額	構成比 100.00		金額 41,430	100.00
総額	48, 848	100, 00	品目 総額		100.00	品目 総額	金額	100.00		金額	100.00
総額 機械類	48, 848 3, 948	100.00 8.08	品目 総額 機械類	27, 337	100.00 31.34	品目	金額 34,794	100. 00 15. 07 12. 53	総額 機械類 石油製品	金額 41,430 6,378 4,383	100.00 15.39 10.58
総額 機械類 液化天然ガス	48, 848 3, 948 3, 547	100.00 8.08 7.26	品目 総額 機械類 石油製品	27, 337 8, 567	100, 00 31, 34 6, 09	品目 総額 繊維品	金額 34,794 5,245	100. 00 15. 07 12. 53 12. 44	総額 機械類 石油製品 原油	金額 41,430 6,378 4,383 4,253	100.00 15.39 10.58 10.27
総額 機械類 液化天然ガス 原油	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681	100, 00 8, 08 7, 26 6, 86 5, 49	品目 総額 機械類	27, 337 8, 567 1, 666	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41	品目 総額 繊維品 衣類 ダイヤモンド 機械類	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879	100. 00 15. 07 12. 53 12. 44 5. 40	総額 機械類 石油製品 原油 ダイヤモンド	金額 41,430 6,378 4,383 4,253 3,248	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84
総額 機械類 液化天然ガス 原油 衣類	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681	100. 00 8. 08 7. 26 6. 86 5. 49 4. 83	品目 総額 機械類 石油製品 有機化合物 鉄鋼 原油	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87	品目 総額 繊維品 衣類 ダイヤモンド 機械類 鉄鋼	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264	100. 00 15. 07 12. 53 12. 44 5. 40 3. 63	総額 機械類 石油製品 原油 ダイヤモンド 金(非貨幣用)	金額 41,430 6,378 4,383 4,253 3,248 2,771	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69
総額 機械類 液化天然ガス 原油 衣類 繊維品 合板類	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349	100. 00 8. 08 7. 26 6. 86 5. 49 4. 83	品目 総額 機械類 石油製品 有機化合物 鉄鋼	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037	100. 00 31. 34 6. 09 5. 46 5. 41 3. 87 3. 79	品目 総額 繊維品 衣類 ダイヤモンド 機械類 鉄鋼 魚介類	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201	100. 00 15. 07 12. 53 12. 44 5. 40 3. 63 3. 45	総額 機械類 石油製品 原油 ダイヤモンド 金(非貨幣用) 有機化合物	金額 41,430 6,378 4,383 4,253 3,248 2,771 1,758	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69 4.24
総額 機械類 液化天然ガス 原油 衣類	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660	100. 00 8. 08 7. 26 6. 86 5. 49 4. 83 4. 52 3. 40	品目 総額 機械類 石油製品 有機化合物 鉄網 繊維品 自動車	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44	品目 総額 繊維品 衣類 ダイヤモンド 機鉄鋼 魚介類 有機化合物	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067	100. 00 15. 07 12. 53 12. 44 5. 40 3. 63 3. 45 3. 07	総額 機械類 石油製品 原油 ダイヤモンド 金(非貨幣用) 有機化合物 鉄鋼	金額 41,430 6,378 4,383 4,253 3,248 2,771 1,758 1,423	100. 00 15. 39 10. 58 10. 27 7. 84 6. 69 4. 24 3. 43
総額 機械類 液化天然ガス 原油 衣類 繊維品 貴金風製品 魚介類	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615	100. 00 8. 08 7. 26 6. 86 5. 49 4. 83 4. 52 3. 40 3. 31	品目 総額 機械類 石油製品 有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 繊維品 日本	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15	品目 総額 繊維品	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947	100. 00 15. 07 12. 53 12. 44 5. 40 3. 63 3. 45 3. 07 2. 72	総額 機械類 石油製品 原油 ダイヤモンド 金(非貨幣用) 有機化合物 無機化合物	金額 41, 430 6, 378 4, 383 4, 253 3, 248 2, 771 1, 758 1, 423 1, 195	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69 4.24 3.43 2.88
総額 機械類 液化天然ガス 原油 衣類 繊維品 合板類 貴金属製品 食介類	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354	100. 00 8. 08 7. 26 6. 86 5. 49 4. 83 4. 52 3. 40 3. 31 2. 77	品目 総額 機械類 石種製品 有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自動車 米 綿花	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15 2, 79	品目 総額 繊維品 数イヤモンド 機械類 鉄鋼 魚介類 有機化合物 医薬品 植物性油かす	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947	100. 00 15. 07 12. 53 12. 44 5. 40 3. 63 3. 45 3. 07 2. 72 2. 64	総額 機械類 石油製品 原油 ダイヤモンド 金(非貨幣用) 有機化合物 無機化合物 五成	金額 41, 430 6, 378 4, 383 4, 253 3, 248 2, 771 1, 758 1, 423 1, 195 1, 191	100. 00 15. 39 10. 58 10. 27 7. 84 6. 69 4. 24 3. 43 2. 88 2. 87
総額 機械類 液化天然ガス 原油 衣類 繊維品 貴金風製品 魚介類	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615	100. 00 8. 08 7. 26 6. 86 5. 49 4. 83 4. 52 3. 40 3. 31 2. 77 2. 76	品目 総額 機械類 石地製品 有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自動車 米 綿花 プラスチック	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15	品目 総額 繊維品 数イヤモンド 機械類 鉄鋼 魚介類 有機化合物 医薬品 植物性油かす	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947 920 907	100. 00 15. 07 12. 53 12. 44 5. 40 3. 63 3. 45 3. 07 2. 72 2. 64 2. 61	総額 機械類 石加製品 原イヤモンド 金(非貨幣用) 有機化合物 鉄鋼 無機化合物 石ペ学肥料	金額 41, 430 6, 378 4, 383 4, 253 3, 248 2, 771 1, 758 1, 423 1, 195	100. 00 15. 39 10. 58 10. 27 7. 84 6. 69 4. 24 3. 43 2. 88 2. 87
総額 機械類 液化天然ガス 原油 表類 機構品 合板類 貴金属製品 魚介類 紙類 石炭	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354	100. 00 8. 08 7. 26 6. 86 5. 49 4. 83 4. 52 3. 40 3. 31 2. 77 2. 76	品目 総額 機械類 石油製品 有放化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自動車 米 パブラスチック リカ3)	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15 2, 79	品目 総額 繊維品 衣類 グ機械類 鉄鋼 魚介類 有機化合物 医薬品 植物性油かす	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947 920 907	100. 00 15. 07 12. 53 12. 44 5. 40 3. 63 3. 45 3. 07 2. 72 2. 64	総額 機械類 石油製品 原油 金(非貨幣用) 有機化合物 鉄鋼 無機化合物 石炭学肥料 ラン1)	金額 41,430 6,378 4,383 4,253 3,248 2,771 1,758 1,423 1,195 1,191 843	100. 00 15. 39 10. 58 10. 27 7. 84 6. 69 4. 24 3. 43 2. 88 2. 87
総額 機械類 液化天然ガス 原油 衣類 養繊維品 合板類 貴金属製品 魚介類 紙類 石炭	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354	100.00 8.08 7.26 6.86 5.49 4.83 4.52 3.40 3.31 2.77 2.76 南アフ	品目 総額 機械類 石油製品 有機化合物 鉄鋼 原油 越動車 米 綿花 ブラスチック リカ3)	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 731	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15 2, 79 2, 67	品目 総額 繊維品 衣類 グ機械類 鉄鋼 魚介類 有機化合物 医薬品 植物性油かす 米	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947 920	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61	総額 機械類 石油製品 原油イヤモンド 金(非貨幣用) 有機化合物 鉄鋼 無機化合物 石炭 化学肥料 タン1)	金額 41,430 6,378 4,383 4,253 3,248 2,771 1,758 1,423 1,195 1,191 843	100. 00 15. 39 10. 58 10. 27 7. 84 6. 69 4. 24 3. 43 2. 88 2. 87 2. 03
総額 機械類 液化天然ガス 原油 衣類 繊維品 合板類 貴金介類 紙類 石炭 輸出	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354 1, 350	100.00 8.08 7.26 6.86 5.49 4.83 4.52 3.40 3.31 2.77 2.76 南アフ	品目 総額 機械類 石油製品 有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自動車 来 綿花 ブラスチック リカ 3)	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 731	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15 2, 79 2, 67	品目 総額 繊維品 数イヤモンド 機械類 鉄鋼 魚介類 有機化合物 医薬品 植物性油かす 米	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947 920 907	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61	総額 機械類 石油ヤモンド を(非貨幣用) 有機化合物 鉄鋼 無機化合物 石炭 化学肥料 タン1) 高目	金額 41,430 6,378 4,383 4,253 3,248 2,771 1,758 1,423 1,195 1,191 843	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69 4.24 3.43 2.88 2.87 2.03
総額 機械類 液化天然ガス 原在類 核維品 合板類 貴金介類 紙類 石炭 輸出 品目	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354 1, 350	100.00 8.08 7.26 6.86 5.49 4.83 4.52 3.40 3.31 2.77 2.76 南アフ	品目 総額 機械類 石有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自動車 米 綿花 ブラスチック リカ3) 輪入 品目	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 731	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15 2, 79 2, 67 	品目 総額 繊維品	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947 920 907 出	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61 パキスク	総額 機械類 石加ヤモンド 金(非貨幣用) 有機化合物 鉄鋼 無及以子 (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学)	金額 41,430 6,378 4,383 4,253 3,248 2,771 1,758 1,423 1,195 1,191 843	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69 4.24 3.43 2.88 2.87 2.03
総額 機械類 液化天然ガス 原本類 繊維品 合板類 貴金原製品 魚紅類 石炭 輸出 総額 金(非貨幣用)	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354 1, 350	100.00 8.08 7.26 6.86 5.49 4.83 4.52 3.40 3.31 2.77 2.76 南アフ	品目 総額 機械類 石種化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自動車 米 綿花 プラスチック リカ3) 輸入 品目	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 731	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 2, 67	品目 総額 繊維品 衣類ヤモンド 機域鋼 魚介類 有機化合物 医薬物性油かす 米 品目 総額維品	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,201 1,067 947 920 907 出	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61 パキスク	総額 機械類 石川中モンド 金(非貨幣用) 有機化合物 鉄鋼 石炭肥料 タン1) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	金額 41,430 6,378 4,383 4,253 3,248 2,771 1,758 1,423 1,195 1,191 843 6 6 6 9,313 1,613	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69 4.24 3.43 2.88 2.87 2.03
総額 機械類 液化天然ガス 原油 裁維品 合板類 養金属製品 魚介類 紙類 石炭 輸出 総額 金(非貨幣用) 鉄鋼	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 315 1, 354 1, 350 27, 340 6, 214 2, 796	100.00 8.08 7.26 5.49 4.83 4.52 3.40 3.31 2.77 2.76 南アフ 構成比 100.00 22.73 10.23	品目 総額 機械類 石油製品 有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自動車 米綿花 ブラスチック リカ3) 輪入 品目 機械類 自動車	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 731 金額 27, 737 8, 775 2, 825	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15 2, 79 2, 67 48 100, 00 31, 64 10, 18	品目 総額 級維品 衣類イヤモンド 機械類 鉄鋼 魚介類 有機化合物 医薬物性油かす 米 島目 総額組品 繊維品 繊維品	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,067 947 920 907 出 金額 8,498 4,302 1,189	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61 パキスク 構成比 100.00 50.62	総額 機械類 石油ヤモンド 金(非貨幣用) 有機化合物 無機化合物 一種機化合物 一種機化合物 一種機能 一種機能 一種機械類 一種機械類 石油製品	金額 41, 430 6, 378 4, 383 4, 253 3, 248 2, 771 1, 758 1, 423 1, 191 843 6入 金額 9, 313 1, 937	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69 4.24 3.43 2.88 2.87 2.03
総額 機械類 液化天然ガス 原油 表類 最板類 貴金属製品 魚介類 紙類 石炭 輸出 総額 総額 後額 後額 の の の の の の の の の の の の の の の の	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354 1, 350 27, 340 6, 214 2, 798 2, 316	100.00 8.08 7.26 6.86 5.49 4.83 4.52 3.40 2.77 2.76 南アフ 	品目 総額 機械類 石油製品 有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自力車 米 綿花 プラスチック リカ3) 輸入 品目 総額 機械類 自加車	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 731 金額 27, 737 8, 775 2, 825 2, 635	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15 2, 79 2, 67 100, 00 31, 64 10, 18 9, 50	品目 総額 繊維品	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947 920 907 出 金額 8,498 4,302 1,189 1,025	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61 パキスク 構成比 100.00 50.62	総額 機械類 石油 原イヤモンド 金(非貨合物 鉄鋼 無機化合物 石炭 肥料 タン(非貨格別) 有機機化合物 石炭 肥料 タン(1) 高 額類 機械 カスカー イン(1) イ イン(1) イ イン(1) イ イン(1) イン(1) イン(1) イン(1) イン(1) イン(1) イン(1) イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ	金額 41,430 6,378 4,253 3,248 2,771 1,758 1,195 1,191 843 0 0 0 0 0 1,613 9,313 1,613 9,37 727	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69 4.24 3.43 2.88 2.87 2.03 構成比 100.00 17.32 10.06 7.81
総額 機械類 液化天然ガス 原和 京類 繊維品 合金属製品 金介類 石炭 輸出 品目 総額 金(非貨幣用) 鉄鋼	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354 1, 350 27, 340 6, 214 2, 796 2, 316 1, 607	100.00 8.08 7.26 6.86 5.49 4.83 4.52 2.77 2.76 南アフ 構成比 100.00 22.73 6.847 7.5.88	品目 総額 機械類 石油製品 有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自動車 米 綿花 プラスチック リカ 3) 輸入 品目 総額 機械類 自原油 有機薬品	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 27, 737 8, 775 2, 825 2, 635 905	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 2, 79 2, 67 100, 00 31, 64 10, 18 9, 50 3, 26	品目 総額 繊維組 タイヤモンド 機械類 飲鋼 魚介機 他合物 医薬品 植物性油かす 米 島目 総額 繊維品 繊維品 ・綿糸 衣類	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947 920 907 出 金額 8,498 4,302 1,189 1,025 1,1916	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61 パキスク 構成比 100.00 50.62 13.99 12.06	総額 機械類 石油ヤモ幣用) 有機網化合物 無無炭 化少1) 品額類製ム をサン1) 品額類製品 一名機械 をサン1) 一個機械 をサン1) 一個機械 をサン1) 一個機械 をサン1) 一個機械 の一名 の一名 の一名 の一名 の一名 の一名 の一名 の一名 の一名 の一名	金額 41, 430 6, 378 4, 383 4, 253 3, 248 2, 771 1, 758 1, 423 1, 191 843 6入 金額 9, 313 1, 937	100, 00 15, 39 10, 58 10, 27 7, 84 6, 69 4, 24 3, 43 2, 88 2, 87 2, 03 100, 00 17, 32 10, 06 7, 81 5, 58
総額 機械類 液化天然ガス 原衣類 繊維品 合金原製品 魚紅類 石炭 輸出 総額 金(非貨幣用) 鉄鋼 タイヤモンド 石機板類	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354 1, 350 27, 340 6, 214 2, 796 2, 316 1, 160 1, 1, 160 1, 1, 160 1, 1, 100 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1	100.00 8.08 7.26 6.86 5.49 4.83 4.52 3.40 2.77 2.76 南アフ 構成比 100.00 22.73 10.23 8.47 7.5.88 3.5.48	品目 総額 機械類 石有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自来 綿花 ブラスチック リカ 3) 輪入 品目 総額 機械類 自機数 情機数 情機数 情機数 情務機数	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 731 27, 737 8, 775 2, 825 2, 635 905 754	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 2, 67 	品目 総額 繊維品 女子ヤモンド 機嫌鋼 魚介類 有機薬品 植機化合物 医変物性油かす 米 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947 920 907 出 金額 8,498 4,302 1,189 1,025	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61 パキスク 100.00 50.62 13.99 12.06 22.55 6.70 3.07	総額類 極減類 原子(非貨合物 鉄鋼 無反学別 高が大きな をできるである。 をできるである。 をできまする。 をできるであるである。 をできるである。 をできるである。 をできるであるである。 をできるであるである。 をできるでは、 をできるでは、 をできるでは、 をできるできるでは、 をできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	金額 41,430 6,378 4,383 3,248 2,771 1,758 1,423 1,191 843 6 6 6 6 7 7 7 7 5 5 2 8 9,313 1,613 9,37 7 27 5 5 5 6 7 6 7 7 7 7 7 7 5 5 5 6 7 6 7	100, 00 15, 39 10, 58 10, 27 7, 84 6, 69 4, 24 3, 43 2, 88 2, 87 2, 03 100, 00 17, 32 10, 06 7, 81 5, 5, 58 4, 22
総額 機械類 液化天然ガス 原本類 繊維品 合金原製品 魚紅類 石炭 輸出 総額 金(非貨幣用) 鉄鋼 ダイヤモンド 石炭 機械類 無機薬品	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354 1, 350 27, 346 6, 214 2, 796 2, 316 1, 607 1, 493 962	100.00 8.08 7.26 6.86 5.49 4.83 4.52 3.31 2.77 2.76 南アフ 構成比 100.00 22.73 10.23 8.47 5.88 3.54 6.86 6	品目 総額 機械類 石有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自 来 綿花 ブラスチック リカ 3) 輸入 品目 総械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械 機械 も も も も も も も も も も も も も も も も も	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 27, 737 8, 775 2, 825 2, 635 905 754 745	100, 00 31, 34 6, 09 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15 2, 79 2, 67 100, 00 31, 64 10, 18 9, 50 3, 26 2, 72 2, 69 2, 69	品目 総額 繊維品 を類イヤモンド 機く類 食物 を動かり を動かり を動かり を動かり という をもいう を動かり という を動かり という を動いる をしる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる をしる をしる をしる をしる をしる をしる をしる をし	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947 920 907 HI 金額 8,498 4,302 1,189 1,025 1,916 573	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61 パキスク 100.00 50.62 13.99 12.06 22.55 6.70 3.07	総額類 極減類 原子(非貨合物 鉄鋼 無反学別 高が大きな をできるである。 をできるである。 をできまする。 をできるであるである。 をできるである。 をできるである。 をできるであるである。 をできるであるである。 をできるでは、 をできるでは、 をできるでは、 をできるできるでは、 をできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	金額 41,430 6,378 4,383 4,253 3,248 2,771 1,758 1,423 1,195 843 6 6 6 7 8 9,313 1,613 937 727 520 393	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69 4.24 3.43 2.88 2.87 2.03 100.00 17.32 10.06 7.81 5.58 4.22 3.84
総額 機械類 液化天然ガス 原丸類 繊維品 合金属製品 魚介類 紙類 石炭 輪出 総額 金(非貨幣用) 鉄鋼 ダイヤモンド 石炭 機械類 無機数 無機数 無機数 乗乗	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 350 27, 340 6, 214 2, 796 2, 316 1, 607 1, 493 962 883	100.00 8.08 7.26 6.86 5.49 4.83 4.52 3.40 2.77 2.76 南アフ 構成比 100.00 22.73 10.23 10.23 5.88 4.83 3.31 3.31 2.77 2.76 7.2 7.3 7.3 	品目 総額 機械類 有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自動車 米綿花 ブラスチック リカ3) 輸入 品目 機械類 自動車 原油 種機板類 自動車 機械類 自動車 様被類 自動車 機械類 自動車 人 経額	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 731 27, 737 8, 775 2, 825 2, 635 905 754 745 674	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 3, 44 3, 15 2, 79 2, 67 100, 00 31, 64 10, 18 9, 50 3, 2e 2, 72 2, 63 2, 6	品目 総額 繊維組 タイヤモンド 機類類 魚種 大変 を 大変 を 大変 を 大変 を 大変 を 大変 を 大変 を 大変	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,201 1,067 947 920 907 HII 金額 8,498 4,302 1,189 1,025 1,916 573 257	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61 パキスク 100.00 50.62 13.99 12.06 22.55 6.74 3.02 2.25 2.25 2.25 3.02 3.03 3.03 3.03 3.03 3.03 3.03 3.03	総額類 石原ダ(非貨合物 大事貨合物 鉄鋼 (非貨合物 鉄鋼機化合物 (大学性) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学	金額 41,430 6,378 4,253 3,248 2,771 1,758 1,423 1,195 843 6入 金額 9,313 1,613 937 727 520 393 393 358	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69 4.24 3.43 2.88 2.87 2.03 100.00 17.32 10.06 7.81 5.58 4.22 3.384 3.51
総額 機械類 液化天然ガス 原本類 繊維品 合金原製品 魚紅類 石炭 輸出 総額 金(非貨幣用) 鉄鋼 ダイヤモンド 石炭 機械類 無機薬品	48, 848 3, 948 3, 547 3, 349 2, 681 2, 358 2, 207 1, 660 1, 615 1, 354 1, 350 27, 346 6, 214 2, 796 2, 316 1, 607 1, 493 962	100.00 8.08 7.26 6.86 5.49 4.83 4.52 2.77 2.76 南アフ 構成比 100.00 22.73 10.23 10.2	品目 総額 機械類 石有機化合物 鉄鋼 原油 繊維品 自 来 綿花 ブラスチック リカ 3) 輸入 品目 総械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械類 自動車 機械 機械 も も も も も も も も も も も も も も も も も	27, 337 8, 567 1, 666 1, 492 1, 479 1, 058 1, 037 940 861 762 27, 737 8, 775 2, 825 2, 635 905 754 745	100, 00 31, 34 6, 09 5, 46 5, 41 3, 87 3, 79 2, 79 2, 67 100, 00 31, 64 10, 18 9, 56 3, 26 2, 72 2, 68 2, 43 2, 09 2, 43 2, 09 2, 43 2, 09 2, 43 2, 09 2, 0	品目 総額 繊維品 を類イヤモンド 機く類 食物 を動かり を動かり を動かり を動かり という をもいう を動かり という を動かり という を動いる をしる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる を動いる をしる をしる をしる をしる をしる をしる をしる をし	金額 34,794 5,245 4,359 4,327 1,879 1,264 1,067 947 920 907 出 金額 4,302 1,189 1,025 1,916 573 257 195	100.00 15.07 12.53 12.44 5.40 3.63 3.45 3.07 2.72 2.64 2.61 100.00 50.62 13.99 12.06 22.55 6.74 3.02 2.22 9.15 9.15	総額類 原子(非貨合物 無原子(非貨合物 無原子(非貨合物) 無原子(非貨合物) 無原子(非貨合物) 類機(水) を物でである。 を物でである。 を物である。 を物である。 を物である。 を物である。 を物である。 をもしている。 をもい。 をもいる。 をもい。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもい。 をもいる。 をもい。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもいる。 をもい。 をもいる。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもいる。 をもいる。 をもい。 を	金額 41, 430 6, 378 4, 425 3, 248 2, 771 1, 758 1, 423 1, 195 1, 191 843 6入 金額 9, 313 1, 937 727 520 358 358 327	100.00 15.39 10.58 10.27 7.84 6.69 4.24 3.43 2.88 2.87 2.03 100.00 17.32 10.06 7.81 5.58 4.22 3.84 3.51 3.33

(注)1)1998年のデータ.

- 2)1997年のデータ.
- 3)1995年の「南アフリカ関税同盟国」(SACU) のデータ.
- (資料)表2に同じ.

スタン同50.62%¹⁶) や「衣類」(インド同12.53%,パキスタン同22.55%) である. 両国ともこうした軽工業品以外の輸出品目としては、インドの「機械類」(同5.40%) と「鉄鋼」(同3.63%) を除けば、「魚介類」(インド同3.45%,パキスタン同6.74%) や「米」(インド同2.61%,パキスタン同6.74%) などの農水産品であり、このことは両国が最も豊富な労働という経済資源(生産要素)を集約的に用いる財の輸出に特化し

ているという「要素賦存説」が教える通りとなっている.

貿易構造上,東南アジア的な特徴と南アジア的な特 徴を併せ持つタイの場合,「機械類」(輸出構成比 35.42%,輸入構成比39.94%)の輸出入シェアはシン ガポール,マレーシアに比べて低く,代わりに「魚介 類」(輸出構成比7.23%),「米」(同3.60%),「天然ゴ ム」(同3.18%)などの農水産品,そして「衣類」(同 6.39%),「繊維品」(同3.53%),「はきもの」(1.80%) といった労働集約的な軽工業品が混在している.このことは、同国が国土的にも人口的「にも、労働集約財の生産と輸出に加え、農水産品にも要素賦存上の比較優位を発揮することができるという背景がある「8.インドネシアの最上位輸出品目も「機械類」(同8.08%)であるが、その輸出シェアはわずかであり、他の東南アジア諸国に比べかなりの入超(輸入構成比31.34%)となっている.先述したように同国の貿易構造はむしろ「衣類」(輸出構成比5.49%),「繊維品」(同4.83%)をはじめとする南アジア型の労働集約財と「原油」(同6.86%)・「液化天然ガス」(同7.26%)など中東型の資源輸出が混在しているものとなっている.

オーストラリアは、「石炭」(輸出構成比11.09%)、「金」(同8.60%)、「鉄鉱石」(同4.49%)、「アルミニウム」(同3.82%)などの鉱物資源を中心に、資本集約的な大規模農業を基盤とした「肉類」(同4.40%)、「小麦」(同3.95%)、「羊毛」(同2.64%)、「酪農品」(同2.37%)をその主な輸出品目としている。「金」(同22.73%)、「鉄鋼」(同10.23%)、「ダイヤモンド」(同8.47%)、「石炭」(同5.88%)、「白金族」(同2.32%)など鉱物資源を主要な輸出品目にしているという意味では南アフリカも同様である。「機械類」(同5.46%)、

「自動車」(同2.71%)など一部工業品輸出もみられる点が他のアフリカ諸国との大きな相違点ではあるが、その中心はやはり鉱物資源系品目である.この意味でオーストラリアも南アフリカも自国に賦存する天然資源を輸出している点で共通している.ただ両者の違いは、オーストラリアが資源系輸出品目に加え、豊富な土地と資本を集約的に用いる大規模な農業生産に特化しているのに対して、南アフリカではそれが必ずしも主要輸出品目という形では見られないということである.このように各国の輸出商品特化の背景には、当該国の要素賦存が作用していることがわかり、このことは現在のそして将来の環インド洋地域内分業の整合性を考えるうえで重要である.こうしたこれまでの分析をトレースする意味で、次にIOR-ARC諸国の要素賦存についてみてみよう.

図3は、IOR - ARC 諸国の要素賦存状態を把握しようとしたものである。横軸には労働者100人当りの国

土面積,縦軸には労働者一人当たりの総資本形成額が測られ、それぞれ世界を1とした場合の各国の相対的要素賦存状態が対数メモリで示されている¹⁹.周知の通り、本来へクシャー=オリーン型の「要素賦存説」は、あくまで当該国の生産要素ストック状態を問題にしているのであって、その意味では、図3縦軸における総資本形成額はフロー指標であり、的確な要素ストックの表現とはいえない。ただ、年々繰り返される資本投資は経験的に資本ストックの大きさに比例するので、間接的にその相対的な規模を表現しているとも言える。こうした若干の留保事情はあるものの、同図における各国の相対的な要素賦存状態は、これまでの輸出商品構造の特徴の背景因を検討する上で、十分意義のあるものということができる。

図中の各国の位置とその意味はこうである. すなわち,オーストラリアのように図中右上方に位置すればするほど,その国は土地と資本が相対的に豊富であり,またバングラデシュやインドのように逆に左下方に位置すればするほど労働豊富,資本希少であることを意味している. シンガポールのように,左上方に位置する国は,土地が希少で資本が相対的に豊富,マダガスカルやモザンビークのように右下方に位置する国は,土地は豊富だが資本は相対的に不足している国を意味している.

土地と資本が相対的に豊富な国にとっての比較優位 分野は近代的システムにおける酪農や大規模農業にあ り、このことは上述してきたオーストラリアの主要輸 出品目の実際と矛盾しない. また労働豊富で, 資本が 相対的に希少な国にとっては、労働集約的な軽工業品 や伝統的な農作物生産が有利であり、インド、バング ラデシュにおける輸出構造上の特徴と一致する. シン ガポールのように資本豊富で土地が希少な国にとって は、なるたけ資本集約的な工業製品に特化することが 肝要であり、これも同国の貿易実態に一致しているこ とが本稿のこれまでの分析で明らかである. こうした 要素賦存の極端な地域の中間に位置するタイやマレー シア, そしてインドネシアが要素賦存上, 必ずしも偏 った輸出商品だけでなく、相対的により広い幅を持っ た特化構造となっているのもこうした要素賦存的な観 点から容易に首肯できるといえる...

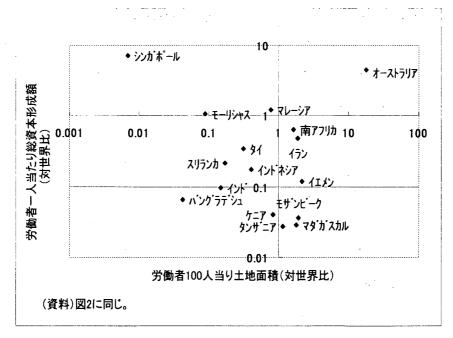


図3 IOR-ARC 諸国の要素賦存(2000年)

むすびにかえて

以上,環インド洋諸国の貿易構造について,いくつかの指標を用いながら検討してきた.前回の拙稿を含めた本研究課題の最終的な目的は,現在から将来にわたる域内分業の可能性についてであった.そこで本稿における以上の分析の締めくくりとして,神戸大学高橋基樹氏が作成された環インド洋地域経済圏の形成と各国の役割に関する表 4²⁰を参照しながら以下,検討を加え本稿のむすびにかえる.

前節までの商品貿易構造ならびにその背景にある要 素賦存状況についての検討からもわかるように各国、 各地域の貿易構造はその要素賦存によって決定的に左 右される. インド洋地域に限らずこうした要素賦存状 況を所与とすれば、それに反するような産業立地や貿 易政策の効果は決して円滑なものとはならない. また 要素賦存状況の似通った国同士での自由化などの貿易 交渉が往々にして競合産業の存在によって捗らない場 合も多い. 表4における各国, 各地域のインド洋地域 での役割も現行におけるそうした人口や天然資源を含 めたより広い意味での要素賦存の現況を前提としたも のである. したがって、教育などの社会政策を通じて 労働者の熟練度を引き上げたり、あるいは外資や援助 を通じた資本や技術流入が長期的に継続することによ って、将来にわたり各国がその比較優位構造や各産業 の競争力を変化させる余地があることを否定するもの ではない.

こうした前提条件にたって表4の内容を説明し、将来期待されるインド洋地域の分業イメージをあえて語るならば、以下のようになろう。まず今後とも継続することが予測される東南アジア、南アジアの経済成長は、人口稠密な両地域における一人当たり所得を上昇させよう。そしてそのことは中間層の拡大を通じて、環インド洋における消費市場としての両地域のプレゼンスを一層高めることになる。その際、想定される新たな域内分業としては、生産された消費財が自給自足的に消費されるだけでなく、マレーシアの対途上国投資にみられるように、東南アジアやオーストラリア、ひいては南アフリカから南アジア、アフリカ地域への生産基盤の移転によって、域内投資先地域の工業化や産業の高度化を促すことになるに違いない。

このことはそれまで一方的に先進地域へと流れていた資源・エネルギーの域内需要への転換を一部意味すると同時に、新たな資源開発のための技術交流の活発化も予想される。その意味でオーストラリア、西アジア(中東)の資源供給地域としての役割は重要である。資源供給国としては南アフリカも存在しているが、同国の役割はむしろ鉱業技術など資源関連技術の域内への供与が中心となろう。

東南アジアの消費拡大を背景とした生産力の域内移転,資源需要増大による新たな資源開発ニーズの高まりと関連技術交流の活発化は、ちょうど1980年代後半以降、くしくもわが国の海外直接投資を中心として東

表 4 環インド地域経済圏形成の可能性と構成地域(国)の役割

	地域経済の特色・問題点	インド洋地域での役割
オーストラリア	・豊かな鉱物・農業資源	資源・食糧供給
	・高賃金熟練労働力	
	・整備されたインフラ、高所得だが狭隘な市場	
	・強い組織労働力	
東南アジア	・良質の労働力(ただ、賃金上昇中)	製品供給
	・資本・人的資本の蓄積途上	消費市場
	・インフラ整備、拡大する消費市場	アジア太平洋地域のゲートウェイ
	・労使問題軽微	
南アジア	・大量の低賃金未熟練労働	製品供給
	・良質な高度熟練労働力	消費市場
	・潜在的な巨大消費市場	
	・不十分なインフラ整備、複雑な社会環境	
西アジア	・エネルギー資源	資金・エネルギー供給
	・狭隘な生産、消費市場	
アフリカ	・相対的に安価な未熟練労働力1)	インド洋の次世代フロンティア
	・インフラの未整備、厳しい自然環境	
	・経済社会不安定	
南アフリカ	・鉱物資源と関連高度技術	希少資源の供給
	・大量の未熟練失業	鉱業技術の供給
	・整備されたインフラ	アフリカ市場のゲートウェイ
	・強い組織労働力	(太平洋)
	・人間問題等複雑な社会環境の残存	

(資料) 高橋基樹氏 (神戸大学) 作成資料に筆者加筆

(注) 1) ただし、国民所得に比べ相対的に高い製造業賃金は必ずしもこれにあたらない (参考文献(8)第3章および 参考文献(9)第9章を参照せよ)。

アジアで起こった雁行型経済発展ダイナミズムの再演 ともいえる. いずれにせよ,こうした現行の要素賦存 やそれに基づく輸出構造を前提にした将来における環 インド洋地域域内分業や経済交流の活発化が円滑に進 む上で不可欠なファクターは,本稿冒頭においてして きたようにオーストラリアや南アフリカ,そしてインドという域内ホストカントリーの積極的姿勢と域外先 進地域の協力如何に関わっているといえる.

付記:本稿は平成14年度科学研究費補助金の基盤研究 (c)(2)による助成金のもとでの研究成果である.

参考文献

- (1) 拙稿「環インド洋地域経済圏の形成とその意義に ついて(1)-IOR - ARC の設立を中心に一」 名古屋文 理大学『紀要』第2号, 35 - 47頁
- (2) 拙稿「新生国家南アフリカ対アジア経済関係の変 容とその意味」(参考文献(9)第3章)
- (3) 高橋基樹「アジアと南部アフリカの経済協力〜環 インド洋経済圏」(財)国際開発センター編『南部 アフリカ地域への援助のあり方調査』1997年,第6
- (4) 同上「環インド洋経済圏の現状と展望:アフリカ からオーストラリアに至る広域経済協力の可能性」 『IDCJ Forum』(国際開発センター)no.15 1996 年3月 24-37頁
- (5) 同上「胎動する環インド洋経済圏」『週刊東洋経済』, 1996年8月10-17日号, 88-91頁
- (6) World Bank, World Development Indicators, 2002.
- (7) 林晃史『南部アフリカ政治経済論』日本貿易振興 会アジア経済研究所,研究双書497,1999年
- (8) 平野克己『図説 アフリカ経済』東洋経済新報社, 2002年
- (9) 平野克己編『新生国家南アフリカの衝撃』日本貿 易振興会アジア経済研究所, 1999年
- (10) ITC/UNSD, Trade Analysis System (PC/TAS), each year.
- (11) 拙稿「東南アジアの経済発展と消費財輸入の増大 について」名古屋文理大学『紀要』,第1号,2001 年
- (12) 拙稿「東南アジアの経済発展における家計行動の 研究」、名古屋文理短期大学『紀要』第25号, 2000
- (13) Wood, Adrian and Jorg Mayer [1998] Africa's Export Structure in Comparative Perspective, IDS and UNCTAD.
- (14) Wood, Adrian and Jorg Mayer [2001] "Africa's Export Structure in Comparative Perspective," Cambridge Journal of Economics, Vol.25, No.3, pp.369-394.

注

- 1 参考文献(1).
- Indian Ocean Rim Association for Regional Cooperation の略称. 具体的な構成国については本 稿図1を、各国の経済的な概要については前稿(参 考文献(1)) を参照のこと...
- 3 前稿でも指摘したように IOR-ARC の閣僚会議で は、日本はエジプトとともにオブザーバーより一段 高いダイアログ・パートナーとしての資格を与えら れている.
- 4 これらの小洋以外に、スエズ運河(エジプト), バーブエルマンデブ海峡(ジブティ・イエメン), ホルムズ海峡 (イラン・オマーン), そしてマラ ッカ海峡 (インドネシア・マレーシア)という国 際海運上きわめて重要な水路が存在している.
- 5 図1に表記されている以外の国・地域としては, コモロ, モルディブ, バーレーン, イラク, カター ル, エリトリア, イスラエル, ヨルダン, スーダン, ジブチ、エチオピア、ソマリア、そして英領インド 洋地域がある.
- 6 パキスタン,仏領レユニオンなど加盟表明国の加 盟問題については前回の拙稿を参照してもらいた い (参考文献(1)).
- 「商品貿易」(merchandise trade) とは、商品と しての財貿易のことであり、いわゆる「サービス貿 易」(trade in commercial services) は含まない.
- この World Bank によるこの輸出商品分類は「標 準国際貿易分類」(SITC) による商品分類を商品グ ループ別に分類しなおしたものである. 表1中の「食 料」は SITC1桁の大分類0 (食料品・生きた動物), 1 (飲料・タバコ), 4 (動植物性油脂) そして SITC2 桁、中分類22(採油用に適する種および果実)から なる. 以下同様に,「農業原材料」が中分類22,27 (粗肥料および粗鉱物) および28 (金属鉱および金 属くず)を除く大分類2(食料に適しない原材料) からなり、「燃料」が大分類3(鉱物性燃料・潤滑油) に該当する.「鉱石・金属」は中分類27,28,そし て68 (非鉄金属) からなり、上記以外の大分類5 (化 学工業製品), 6 (原料別製品), 7 (機械類・輸送), 8 (雑製品) が「製品」にまとめられている. なお 非貨幣用金など SITC 9 に属する取引を含め、未分 類取引があるため、構成比の合計は必ずしも100% にはならない.
- 9 この「対世界比」を SITC3桁以上のレベルまで分

類水準を引き上げたものが「顕示比較優位度」(RCA: Revealed Comparative Advantage)である.これは貿易における特化の程度を表すための指標である.一般的には、A商品の世界貿易に占める割合をAw,同じくi国の輸出に占める割合をAiとするとAi/Awで計算され、値は0以上の値をとる.後に本稿で見る「特化係数」とは違い、こちらを「特化係数」と呼ぶ場合もある.確かに表1における商品グループ分類には数多くの商品が含まれているので、これが当該国の特化状態(比較優位)そのものを示すとは言いがたいが、一次接近として当該国輸出構造の世界貿易における意味付けを知るうえでは、後に示す「特化係数」同様、大変便利な指標であるともいえる.

- ¹⁰ こうした「再輸出」を反映して、1999年における 両国の輸出依存度は、シンガポールが135.0%、マ レーシアが106.8%となっている.
- 11 本文では取り上げていないが、図中の「その他の 製造業品」には、未分類製品のほか木材および同製 品、製紙、石油および同製品、卑金属および鉱物製 品が含まれる.
- 12 こうした一次産品輸出問題の一つが,一次産品価格の低迷である。1990年代「石油」以外の一次産品国際価格は軒並み低下している。
- 「特化係数」(coefficient of specialization) とは、 先に示した RCA (注9を参照) 同様、貿易における 特化の程度を表すための指標である。ただこの場合、 当該商品の当該国における輸出入額の差額を当該 商品輸出入額で除した値として示される。したがって、値は-1.00から1.00の範囲をとり、1.00に近づけば近づくほど輸出に特化(輸出商品)していることを示す。逆に0を下回る負の値をとる場合には基本的に当該商品が輸入品目であることあらわしている。ただこの係数は、各国の貿易特化状況を当該 商品貿易の輸出額、輸入額の相対的規模で表しているに過ぎないので、当該国の輸出産品の検討には貿 易量の把握が不可欠である。
- 14 1998年のシンガポール人口390万人に対して、マレーシアの人口は2,271万人、またマレーシアの国土面積は33万平方キロメートルでシンガポール (600平方キロメートル) の550倍.
- ¹⁵ サウジアラビア (人口1990万人) に比べ, オマーン (246万人), クウェート (211万人) の人口はおよそ9分の1である.

- ¹⁶ 「綿織物」(輸出構成比13.99%),「綿糸」(同 12.06%)を含む。
- ¹⁷ 1999年におけるタイの人口はおよそ6,181万人, 国土面積も51万平方キロメートルとマレーシアの 約1.5倍である.
- 18 ただこうしたタイにおける軽工業品産業の残存には、同国の経済発展の歴史的なプロセスが反映されている。東南アジア諸国の経済発展ならびにその経済構造上の特徴については参考文献(1)(12)を参照せよ
- 「同図は Wood, and Mayer(参考文献(13/14))のアフリカ要素賦存分析に触発されたものである. 彼ら自身の分析では, 縦軸に熟練度示す就学率がとられている
- ²⁰ 同氏のご厚情により筆者が加筆させていただいた 部分を含んでいる.